

〔科目名〕 グローバル経営論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 小林 哲也 こばやし てつや	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回授業時に連絡します 場所: 初回授業時に連絡します	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 現在、どのような国でも、単独で経済を維持できる存在はない。ほとんどの国は、他国との経済関係を構築し、経済を発展させている。経済が全地球規模で広がった社会において、多くの企業が海外でのビジネスを展開している。単に物を輸出しているところから、本格的な製品の生産やサービスの展開を行っており、その動向は一国の経済規模を遥かに上回るまでになっている。これらの企業は、海外において成功している要因は、「競争優位」を外国でも実現し、現地での競争を優位に進めているところにある。一方で、地球上に存在する国や地域は、人種、宗教、社会環境、習慣などの点で多様であり、本国で成功したやり方が必ずしも、進出先で成功するとは限らない。では、いわゆる「グローバル企業」が世界市場において広く成功している要因は何か？本講義では、この点に焦点を当てて、グローバル企業の海外展開の状況や海外での経営の状況を確認しながら、いかにして競争優位を海外においても確立していくのかの方法を考えていく。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 【他の科目との関連付け】 グローバル経営は、いうまでもなく、企業「経営」を考える授業である。そのため、これまでに学生の皆さんが学んできた経営学の基礎的な領域からマーケティングや経営戦略などの専門的な領域までをベースとして学ぶ学問領域である。また、「グローバル」の名前通り、世界規模で考える必要がある上に、異文化コミュニケーションなど自らの背景とは異なる人たちとの交流や意思の疎通が求められ、これらを理解しておかなければならない。このため、本講義では、経営学の基本から発展的な領域に加え、「異文化」に関する知識や態度の基本的領域を身につけることができる。 【学んだことが、何に結びつか】 経営学科のディプロマ・ポリシーに示された「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる人材」と「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点を当てながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる人材」の養成に直接関係する授業であり、「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる人材」の養成の導入部分を担う授業でもある。また、グローバル社会の進展に伴い、世界経済の動向や競争環境などを前提とすることから、これらの領域についての知識の養成や、異文化理解の重要性を考えることが出来る能力の養成にもつながる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点を当てながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる」能力の構築を目標とする。また、「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力の導入部分の構築も目標とする。これらにより、さまざまな情報を取捨選択し、自ら考え、方向性を決定できる能力の構築を目指す。また、グローバルに関する分野の学修を通じて、さまざまな背景を持つ人々との交流や意思の疎通について、相手の立場や環境を考えながらコミュニケーションが図れる能力の構築も同時に達成できるようにすることが目標である。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 担当教員にとって、初年度の授業であるため、コメント等は提示しない。		
〔教科書〕 特に指定しない		
〔指定図書〕 授業に関して下記の文献を参照する。 浅川和宏『グローバル経営論』日本経済新聞社、2003年 大木清弘『コア・テキスト 国際経営』新世社、2017年 ジェフリー・ジョーンズ著・安室憲一・梅野巨利訳『国際経営講義 多国籍企業とグローバル資本主義』有斐閣、2007年		

<p>【参考書】 江夏健一・首藤信彦『多国籍企業論』八千代出版, 1993 年 奥村皓一・夏目啓二・上田慧『テキスト多国籍企業論』ミネルヴァ書房, 2006 年 五味紀男・安田賢憲『国際経営論の基礎』文眞堂, 2008 年 安室憲一『グローバル経営論』千倉書房, 1992 年 吉原英樹『国際経営』有斐閣アルマ, 1997 年 ステファン・H・ハイマー著・宮崎義一編訳『多国籍企業論』岩波書店, 1979 年 レイモンド・ヴァーノン著・霍見芳浩訳『多国籍企業の新展開—追い詰められる国家主権』ダイヤモンド社, 1973 年</p>	
<p>【前提科目】 特に指定しないが、経営学科の基礎科目を履修し、内容を理解しておくことが求められる。</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 以下の配分で評価を行う 授業時のリアクションペーパーの内容(50%) 学期末試験の結果(50%) なお、期末試験の内容については、授業時に説明する。ただし、特別の配慮が必要な方については個別に対応する。</p>	
<p>【評価の基準及びスケール】 上記の内容をもとに、以下の点数の範囲で評価を行う。 A:100～80 点, B:79～70 点, C:69～60 点, D:59～50 点, F:49 点以下</p>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 経営学の本格的な領域であり、広範な地域を考える学問領域であることから、学生の皆さんがわかりやすいよう、具体的な事例等を使って授業を展開する。 学生の皆さんには、授業前にシラバスをもとに、指定図書の該当部分に目を通すなどしてあらかじめ内容に触れておくことが求められる。また、授業後には、授業内容を振り返り、内容を整理するなどして、理解に努められたい。わからないことがある場合には、担当教員に確認するなどして、必ず疑問を解消しておくこと。標準的な事前・事後学習の時間は、約3時間である。</p>	
<p>【実務経歴】 シンクタンクでの勤務実績(10年間)</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 授業の進め方やグローバル経済とグローバル企業の関係などの概要の解説。この授業でどのような内容を学習するのかを理解できる。 教科書・指定図書 浅川 第1章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): グローバル企業とは何か? グローバル経営の主体であるグローバル企業の定義やグローバル化の特徴などの解説。企業のグローバル活動の定義や目的を理解できる。 教科書・指定図書 浅川 第1章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 海外直接投資 内 容: 企業の本格的なグローバル活動の前提となる海外直接投資の定義や方法などの解説。海外直接投資とは何かを理解できる。 教科書・指定図書 大木 第3章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): グローバル化の段階と形態 内 容: 企業のグローバル活動の諸段階とその活動を行うための形態についての解説。企業のグローバル活動の段階とその内容が理解できる。 教科書・指定図書 大木 第4章, 第8章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): グローバル経営戦略 内 容: グローバル戦略とマルチドメスティック戦略, ポーターの4戦略についての解説。競争環境の違いによって選択される戦略の違いを理解できる。 教科書・指定図書 浅川 第2章</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 本社-子会社関係</p> <p>内 容: グローバル経営において、本国本社が海外子会社をどのようにコントロールするかの解説。市場や進出先の状況などによって本社-子会社の関係がどのようになるのかを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 第5章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): グローバル統合とローカル適応</p> <p>内 容: 海外現地子会社の経営手法の違いについての解説。海外子会社の現地経営手法の違いを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 第6章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 垂直統合と国際分業</p> <p>内 容: グローバル企業の国境を超えた経営における事業の選択としての垂直統合と分業についての解説。国境を超えた市場における垂直統合と分業の関係を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 大木 第7章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業と国家の関係</p> <p>内 容: 多国籍企業の存在か、国家によってどのように変化したのかの解説。時期による多国籍企業に対する捉え方の変化とその背景を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ジョーンズ 第8章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人材育成</p> <p>内 容: 海外現地子会社における人材育成とキャリアの関係、現地人材による技能育成の重要性の解説。海外における優秀な人材の育成と雇用、キャリアの関係を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 第11章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): リージョナルマネジメント</p> <p>内 容: 進出先子会社の経営と現地子会社のコントロールについての解説。リージョナルマネジメントとは何かを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 第12章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): グローバル経営と文化の側面</p> <p>内 容: 進出先の文化の違いがグローバル企業の経営に与える影響についての解説。異文化における現地子会社経営の特徴とその方法を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 第13章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): トランスナショナル経営</p> <p>内 容: 多国籍企業の経営手法としてのトランスナショナル経営の解説。トランスナショナル経営とは何かを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 第7章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): グローバル経営の課題</p> <p>内 容: グローバル展開を進める中で、どのような課題があり、どう解決していくのかの解説。グローバル経営の課題とその方向性を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 浅川 終章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめとフィードバック</p> <p>内 容: これまでの授業を振り返り、内容をまとめ、疑問点や課題を解消する。これまでの授業の内容をより深く理解し、疑問点を解決することができる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>学期末試験の実施を予定</p>